

2021年
8月11日号
NO 6号



じんけんを「他人ごと」から「自分ごと」へ

OYA OYA 通信

学びのホームグラウンド じんけん楽習



みんなのふりかえり 6回目 7/28

ジェーン・エリオット先生ふたたび
富岡美知子さんの回
(異文化コミュニケーション・トレーナー)

2021年度じんけん楽習塾最終回の7月28日は「ジェーン・エリオット先生ふたたび」がテーマでした。講師は富岡美知子（異文化コミュニケーション・トレーナー）さんです。エリオット先生は、アメリカで人種差別体験授業を实践された人です。

富岡さんからは事前に下記の動画をできれば視聴しておいてほしいとのことでした。

(1) ジェーン・エリオット先生の人種差別体験授業の一部（1970年及び1985年撮影）

小学校3年生と15年後の同窓会に集まった元小学校3年生が映っています。

ジェーン・エリオット先生による解説は1985年に撮影されたもの。（約16分）

Jane Elliott 日本語字幕 blue eyes brown eyes - YouTube

www.youtube.com/watch?v=c18oEXqDgIk

(2) 「13th -憲法修正第13条-」 ネットflixのドキュメンタリー映画（2016年制作）

YouTubeで無料公開されています。アメリカでは「黒人＝犯罪者」という根強い偏見がありますが、この映画では黒人の大量投獄を取り上げ、黒人と犯罪を巡る構造を明らかにし、偏見を崩しています。（約1時間40分）

hiphopdna.jp/news/10865

※今回、じんけん楽習塾で上映した動画は下記です。

エリオット先生の差別体験授業 ～青い目・茶色い目～（アメリカ2001）

エリオット先生の差別体験授業 大学生への集中講義版

ジェーン・エリオット先生⇒



<https://www.dailymotion.com/video/xl6o3pv>



■メラニンの 多少で決まる 階級制

（富岡美知子）

■J・エリオット先生の人種差別体験授業と修正憲法13条を見終わった時の感想は、入管の最近の酷い対応です。名古屋で命まで奪われる事象も起こっていることを思い出した。しかし、楽習塾当日の学生版のエリオット先生の授業を見た時の感想は、究極の参加型授業ではないかと思った。貿易ゲームなど先進途上国の立場を考えさせるアクティビティはあるが、この先生の授業はそうではなくまさに黒人が今置かれている状況を、そういう状況に置いている白人の立場の人に感じさせるというもの。それだけ黒人に対する差別は酷いもので、逆に白人はそれを当たり前のよう感じていると。アメリカ先住民の学生がカミングアウトした時に、周りに座っている学生がカミングアウトしてもいいのかという視線を送っていたのが印象的だった。ただ、授業はこの後もふりかえりまであって、彼ら彼女らはメンタル的にもコミュニケーション的にも豊かになったのではないかと思う。やはり、最後は自分に返ってこないと学習した意味がない。生まれたての赤ちゃんは差別しない。差別を知らない。それが生い立ちの中で差別を身につけていく、知っていく。それはどこで身

に着けて知っていくのだろうか。教育の役割は大きいと思う。(ふくちゃん)

■大学生の授業を見て、とても驚きましたし、勉強になりました。差別の構図、差別する側とされる側の気持ちがとてもよく分かったように思います。

今日は参加できてよかったです。

■心づもりはしていましたが、かなり衝撃なビデオの内容でした。差別される側の立場に立たされて、心に傷を負う姿を見ましたが、これよりもまだ強い差別を受ける人がいるのだと、深く考えさせられました。

■事前に提供されていた動画を見て、これが現在の状況なのかと驚きました。(アメリカの刑務所事情) エリオット先生の授業は、ここまでやらなくてはいけないのかと思うくらい厳しい態度ですが、BLACK LIVES MATTERがあり続けているかぎり、必要なことかもしれないと思いました。

■私は今まで、生活の中で人種差別を経験したことがないのですが、今回ジェーンエリオット先生の授業の映像を見て有色人種はこんな扱いを日常的に受けているのかと驚きました。

「違いはない」とは言えないけれど、人種は一つ「人類」という言葉を心に留めていたいと思いました。

■以前富岡さんの楽習塾でスター〇〇(忘れた!)バーンガなど文化の違いや不平等といった体験学習をした。その時でも様々な感情がわきおこりましたが、今回も見るだけでも感情がゆれました。ただ文化の違いとして低コンテキスト文化(初めて知ったことはですが)だからこそそのやりとりが生きてきて、お互いの考えを知ったり受け入れ度がわかったりもするのかと思った。日本の高コンテキスト文化であつたらどうなるのか、エリオット先生も困るのだろうか?

■大学生バージョンでもたくさんの気づきを喚起してくださった富岡先生のファシリテーションに感謝いたします。

例えば、白人女性が泣くとかわいそう、黒人女性がなくと無視される。

ということからも、その通りだと思いました。

■深い学びのあるいい企画をしていただき、ありが

とうございました。大学生の授業の映像は大きなインパクトがありましたが、場面がたくさん変わって、消化しきれないところがあり、もう一度 Youtube で見てからと思い、遅くなりました。Youtubeで50分を超える長いものであることがわかりましたが、昨日は内容に引き寄せられたたのか、10分か15分くらい見たような印象でした。

感想は何よりも、ジェーン・エリオット先生の生き方に感銘を受けました。30年以上前に、NHKで放映されたものを見た記憶があります。ずっと米国に根深く存在する人種差別に気づくための効果的な授業を実践した人という印象しかなかったのですが、この度、そのことで、脅迫メールや家族への嫌がらせを含む、様々なバッシングに遭いながらも、人種差別に反対する人たちを育てるための信念を貫きとおしたことを知り、私自身が勇気づけられました。そして、エリオット先生の深い洞察力と知識に裏打ちされた授業のすごさも伝わってきました。米国を薄っぺらくしか理解していなかったことも痛感しています。もちろん、日本とはたどった歴史やマイノリティのグループの状況は違いますが、共通するレイシズムとの対峙は日本で今本当に必要な人権の活動であると思っています。排除し、差別する人の多くは、自分たちが間違っているとは思っていないし、その問題性を指摘するとむしろマイノリティに問題があるとし、さらに攻撃をするようなことは日本でも起こっています。米国の経験から学べるものがたくさんあると思いました。エリオット先生は、まさにジャスティスの実現を目指しておられるのだと思い、それにも共感しました。

ハードルの高い題材をわかりやすく私たちに解題してくださった富岡さんに感謝です。(ぱく くね)



※今回も会場とオンラインのハイブリット形式での実施でした。なかなか難しいですね。(事務局)